



平成20年度 官民合同会議資料 「エタノール」

2008年11月

伊藤忠商事株式会社

中南米総支配人 田中一男

I . 弊社(伊藤忠商事)の取組み

①ミナス・ジェライス州案件

- 2008年9月30日に弊社は穀物メジャーのBUNGEグループが保有するミナス・ジェライス州のエタノール生産プラントへ20%の出資を実行。本件への出資によりサトウキビを原料とするバイオエタノール及び砂糖の生産・販売事業に参画。

案件名	Santa Juliana
所在地	ミナス・ジェライス 州
案件進捗状況	既存生産プラント + 拡張(135→260千kl/y)
生産能力	Ethanol:260千kl/y (Sugar:180千t/y)
CAPEX	約US\$432百万
スケジュール	2006年より稼働開始 2011年にフル稼働予定
シェア	BUNGE 80% ITOCHU 20%
積出港 (for Export)	Port Santos or Vitoria

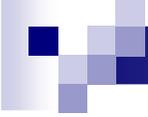
Santa Juliana Location



Ⅱ. 日本の輸送用燃料における バイオ燃料の利用目標(原油換算:50万KL)

石油業界によるバイオエタノール利用

- 石油元売各社が出資する「バイオマス燃料供給有限責任事業組合(英文略称 JBSSL)」が主体となり、ETBE(ハイオク添加剤)の導入を推進している。
- 上記のETBEの導入により、原油換算:年間21万KL相当については、手当て済み。これはETBE換算で、84万KL(※)となる。(※エタノール36万KL+イソブテン48万KL)
- 残りの年間29万KL相当については、国産バイオ(エタノール、ディーゼル)による地産地消及びETBE、もしくはエタノールの追加輸入等により対応する予定であるものの、具体的な進捗が見られない。

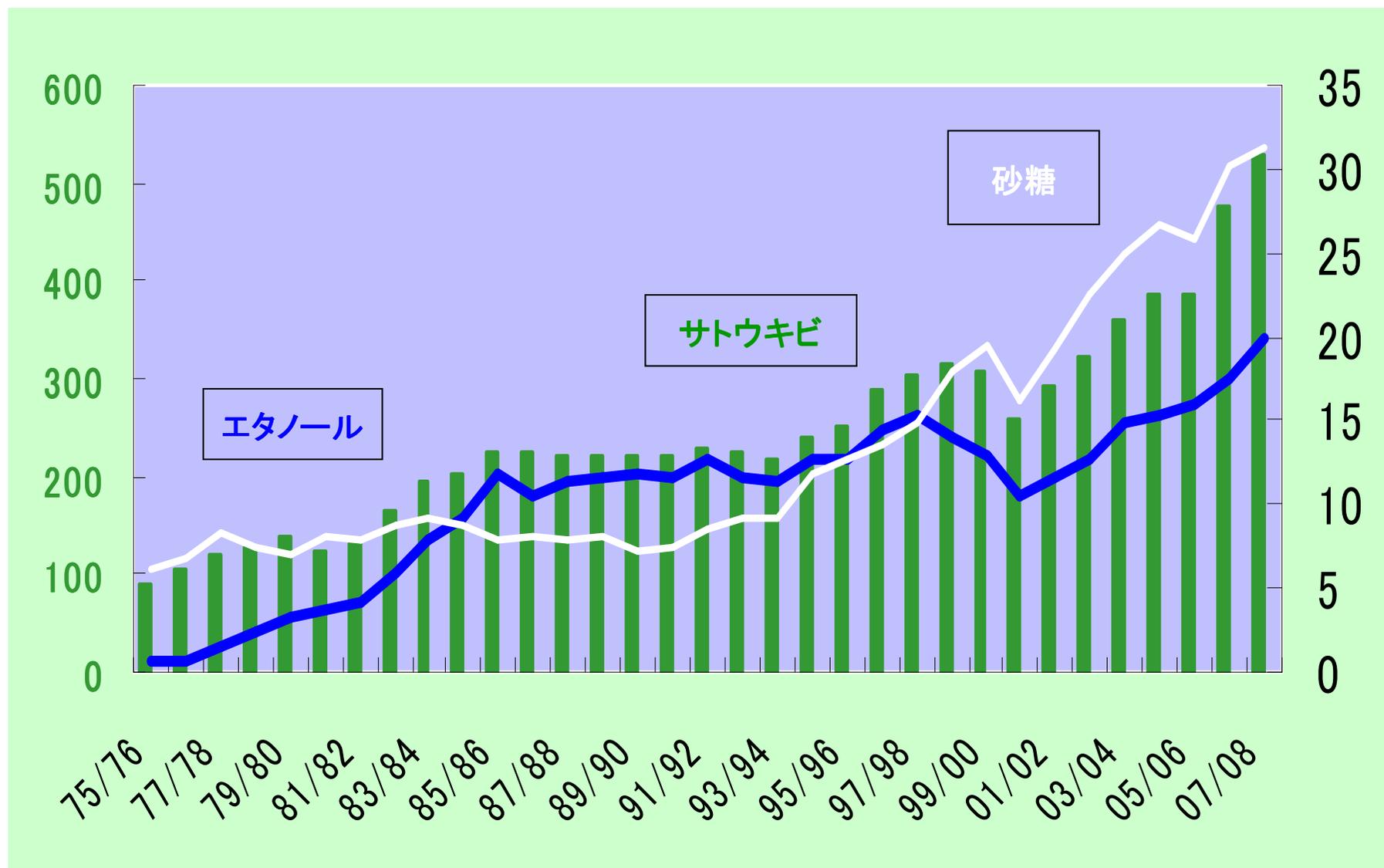


Ⅲ. ブラジルのエタノール生産事情

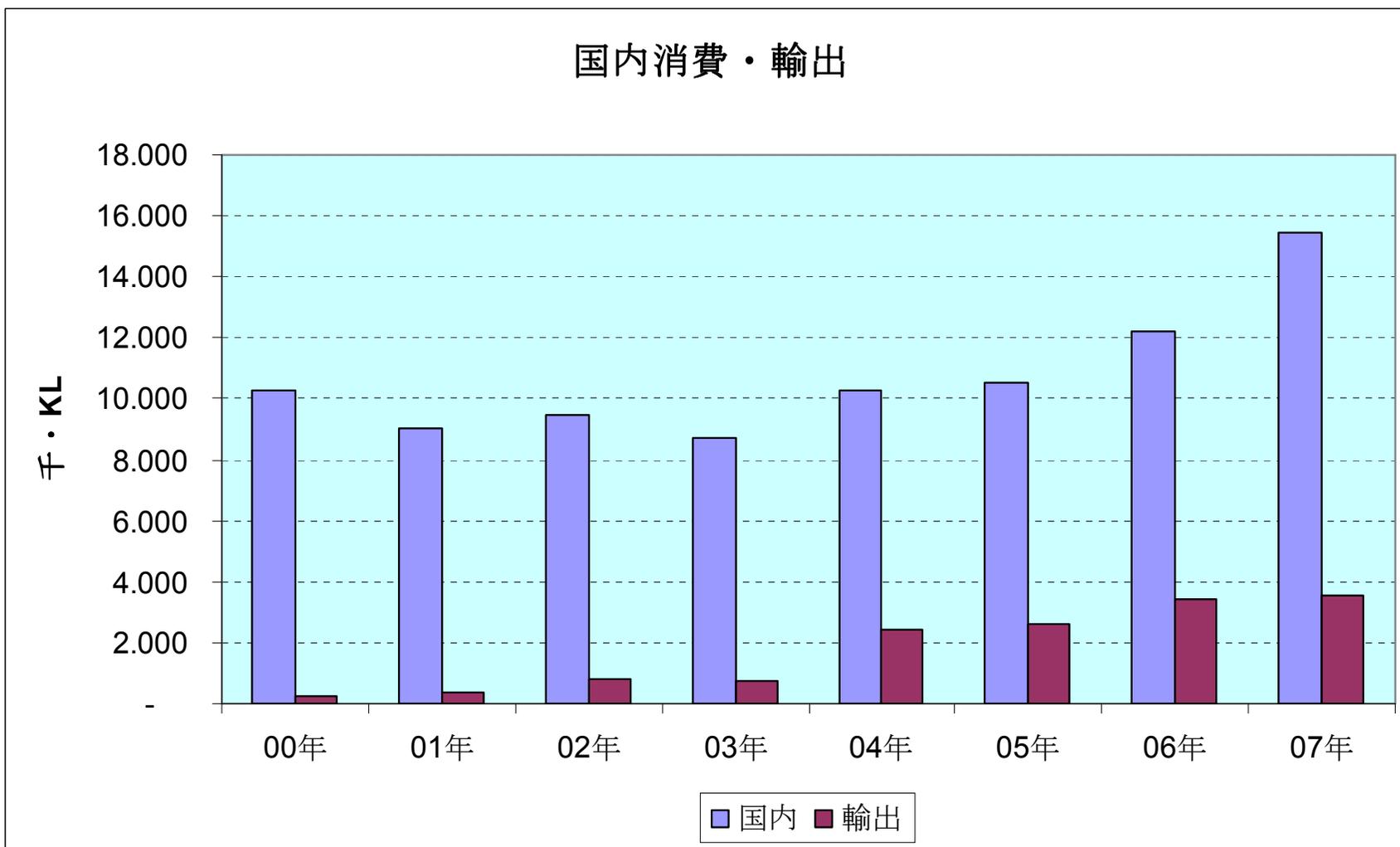
- ブラジルは日本にとってのエタノール最大供給国候補。
- エタノール生産世界一位で07年生産量実績は約20百万KI。
- 内、国内消費：15.3百万KI、輸出：3.5百万KI、在庫調整：1.2百万KI
- 2010年には、生産量：25百万KI(内、輸出：5百万KI)まで増加すると想定。

ブラジルの生産推移⇒サトウキビ、砂糖、エタノール

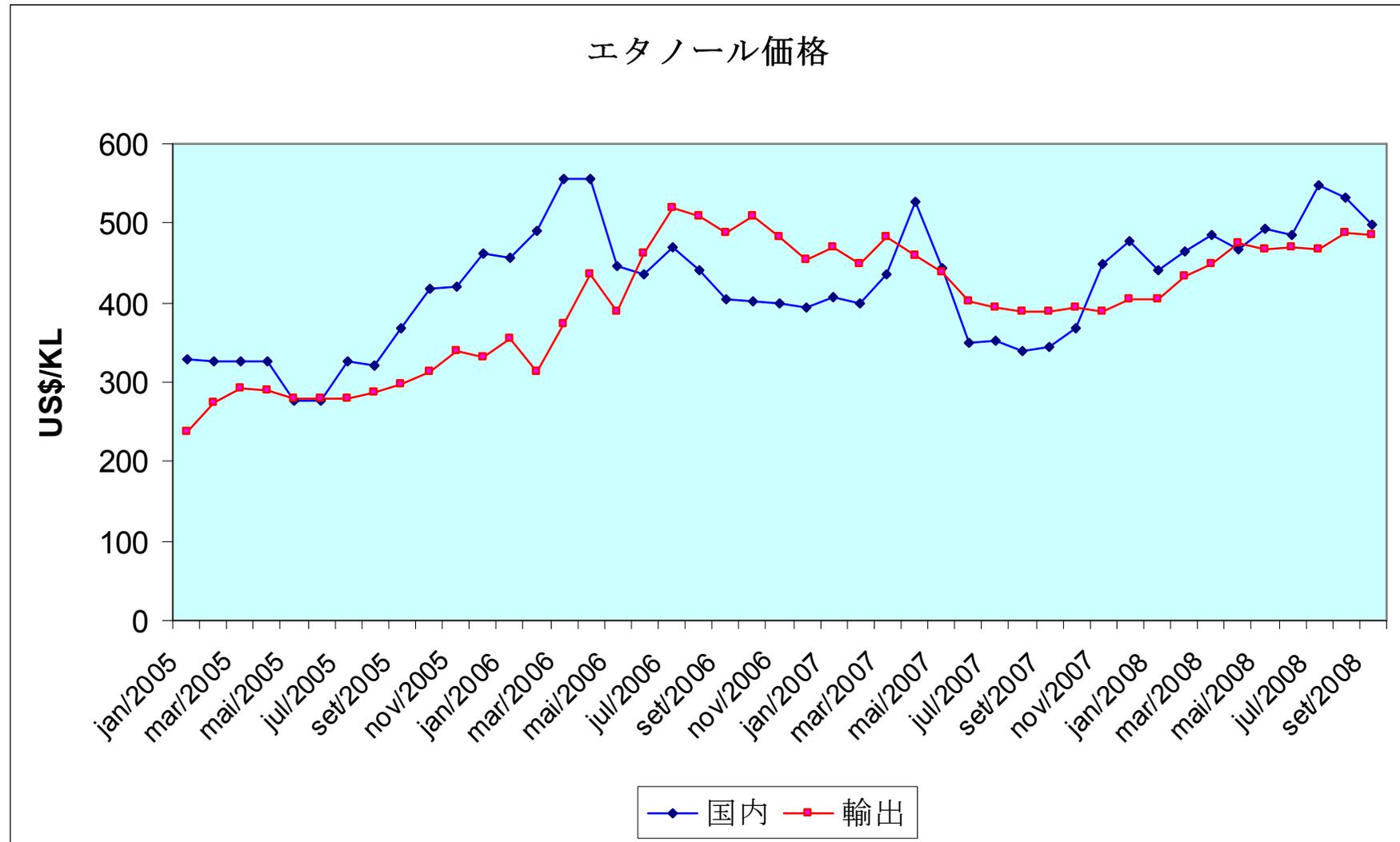
サトウキビ単位:百万ト(左目盛り)、砂糖:百万ト、エタノール百万キロリットル(右目盛り)



国内消費 X 輸出



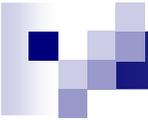
エタノール価格動向





IV. 官民一体の協力体制

- 1) 地球温暖化対策と化石燃料の消費抑制は地球規模の要求
- 2) ブラジルからのエタノール導入はその世界的な需要と導入量の規模を考慮すると両国政府の協力無くして成り立たないもの



VI. 今後の日伯関係の更なる活性化について

- 以上の認識に立ち、
日伯経済関係を更に盛り上げて行くという視点から見た、
エタノールに関わる問題と、日本政府に期待する役割

1) 財政上の措置

2) インフラ整備支援